

## 北アルプス 北穂高岳東稜

笹川

【日時】2008年11月1日(土)～3日(月)

【メンバー】L 笹川、小暮

北穂東稜のゴジラの背は8年も前から行きたかったルート。しかし適期の11月初旬に行くにはまだアイゼンワークが心配な時期。かと言ってGWには物足りないルートとなりなかなか行けずにいた。まだ雪山モードではない小暮さんにアイゼントレに付き合ってもらい、今年の出発の準備ができた。



11月1日(土)

沢渡の駐車場からバスに乗り、上高地へ向かう。3連休でバスの本数が多く助かった。釜トンネルを抜けると、青空・白い稜線・カラマツの紅葉の焼岳が美しく、一気に初冬の景色へと変わり、モチベーションがあがる。この景色を見ただけでもかなり満足できる。

上高地からの横尾までの景色もまた素晴らしい。それに以前登った明神東稜、いつか登りたい前穂北尾根と見所がいっぱいで何度も足を止めてしまい、涸沢に着くころには夕暮れ間近となってしまった。

11月2日(日)

夜明けと共に出発。涸沢小屋を過ぎ北穂への夏道を登り始めた頃、涸沢ヒュッテには日の出を見ようとたくさんの人が外に出ていた。

我々は、北穂沢を横切り登りやすそうなルンゼから取り付く。それなりに斜度があり、稜線に出る手前のハイマツ処理が面倒だった。

その後、見た目には雪の稜線が続くが、実際は浮石に雪がかかっているような感じで、先行する小暮さんが穴にはまり時々見えなくなる。足を捻らないよう注意が必要だ。



北穂沢のモルゲンルート

やっと岩稜が出てくると、我々とは別のルートから15人位登ってくるのが見えた。雪山始めなので、早めにロープを付け、ランニングコンテで進む。途中、2回ほどスタカットに切り替えたが、核心部のフェース部分にはハーケンが連打しており、精神的にも難なく登れる。ビレイしていると後続パーティに追いつかれた。どうやらどのパーティもガイド山行のようで、ガイドさんは全く支点を取らずに登ってくるので、あっという間に渋滞となってしまった。小暮さんのガチャ切れのタイミングでリード交代。高度感たっぷりだが、手はガバで足元も安定しているの、楽しい。ナイフリッジ部分にはハーケン等はないが、ピナクルでランニングが取れる。すぐに10Mの懸垂地点となり、北穂小屋まで膝下のラッセルとなる。北穂高岳からは北穂沢を下る。朝にはなかったトレースだが、既にだいぶ踏まれた状態になっていた。中途半端な時間ではあったが、明日の中央道の渋滞を考え、今日中に行ける所まで下山することにした。最初は徳沢を目標にしていたが、私の靴ずれがひどく、また行動時間が長く疲れたので、横尾に泊まることにした。横尾山荘でビールを購入し、祝杯をあげた。



11月3日(月)  
今日は一昨日と比べ曇りで展望も楽しめない。横尾の先ではサルが林道に出て見送ってくれた。

涸沢は予想通りの人の多さだったが、北穂東稜までこんなに人が入ってくるとは思わなかった。ゴジラの背には適度に雪がついていて簡単だけど面白い好ルートだった。この時期は紅葉も楽しめ、交通の便も良く、シーズン始めとしては充実した山行でした。



ゴジラの背

【地図】 上高地、穂高岳

【行程】 11/1 上高地(9:15)～横尾  
(12:25/12:50)～本谷橋  
(13:50/13:55)～涸沢  
(16:00)

11/2 C1 (5:50)～東稜稜線 (7:35)  
～北穂高岳山頂 (11:55/12:15)～C1  
(13:20/14:00)～本谷橋 (15:05)～  
横尾 (16:20)

11/3 C2 (7:30)～上高地 (10:05)